



今年の主役 と 西郷どん 支える

④

「西郷が生まれ育った家には、空腹を満たすためボンタンや柿などさまざまな果樹が植えられていた」「普段、菜っ葉やカボチャなど貝たくさんのみそ汁を飲んでいたら

しい」

西郷隆盛という人物像を、食や家庭内のエピソードから生き生きと浮かび上がらせる。バスツアーやまち歩き、歴史講座など年間60回ほどのイベントを開くNPO法人か

ごしま新発見伝塾(鹿児島市)の理事長。バスガイド時代に磨いた技術を生かし、鹿児島弁を織り交ぜながら良く通る声で分かりやすく説明する。出水市中央町生まれ。出水は島津氏に縁が深

夫、征男さん(75)の勤務地に合わせ、指宿市や鹿児島市で専業主婦として子供3人を育てながら、復帰も視野に、歴史の勉強を続けた。鹿児島市のボランティアアガイドに応募したの

いまい・としこ 1947年生まれ。小山田町に夫と暮らし、休日資料を読み込む。趣味はベイトベンなどのクラシック鑑賞。

た逸話を披露する。大家族で苦労するイト(糸)夫人をねぎらう思いがあったのか、その料理をよく褒めていたこと、知人の娘に「これからは男も女もない時代が来る」と、勉強するように促していたこと。

— かがしま新発見伝塾理事長 —

— 今井 俊子さん(70) —

女性の視点で魅力発信

く、歴史に関心が高い土地柄。祖父母に「悪いことをすると西郷さんに怒られる」「西郷さんのように正直で、うそを言わず真つすく生きなさい」と繰り返し言われ育ち、幼い頃から西郷は身近で模範となる存在だった。

は、子育てが一段落した48歳の時だ。仙巖園の語り部にも採用され、10年間、園内を案内した。ただ、女性として西郷さんの一番の魅力だと捉える「貧しい農家や女性、子どもに優しくした部

共に2014年7月、NPO法人を発足させた。「薩長同盟や戊辰戦争など、歴史的大事件の中の西郷さんだけではなく、身近な西郷さんに触れてほしい」。歴史講座などでは、こつこつ集め

仕事は、既に月5、6件入っている。「例年の倍忙しくなりそう」。県内の自然、歴史、文化、食など多様な魅力を掘り起こし「新たな観光資源につながるれば」と意気込んでいる。(勝目博之)

出水高校を卒業すると鹿児島交通に就職した。当時の花形だったバスガイドになり、県内各地の名所案内を一生懸命覚えながら3年後、結婚退社。

「西郷隆盛が最期に見たであろう風景」と南洲神社から望む桜島を紹介する今井俊子さん。鹿児島市上竜尾町(養田智史撮影)

私のオススメ

■海音寺潮五郎著「西郷隆盛」



中でも、やりたいことがたくさんありながら夢の途中で亡くなった島津斉彬公が登場する1巻が好き。西郷さんと斉彬公は車の両輪で、天が2人を幕末の日本に遣わしたと思っっています。本来は交わることがない殿様と下級武士が出会った奇跡が伝わります。私のバイブル。何度も読み返しています。(本人談)